

# 神奈川県立の博物館・美術館 令和7年度展覧会スケジュール

	金沢文庫	歴史博物館	生命の星・地球博物館	
4	<p><b>3/28~5/18</b></p> <p><b>特別展「至高の宝蔵」</b> 当文庫が収蔵する、国宝・重要文化財を中心とする称名寺の名宝を、一堂に会します。</p>	<p>工事のため通年休館しています</p>	<p>常設展（通年）</p> <p><b>2/22~5/11</b></p> <p><b>企画展</b> 「すな ーふしぎをみつけようー」 砂は、その土地によって異なる姿を見せる「大地のかけら」です。本企画展では砂の多様性、砂からわかる周辺の大地の特徴、博物館で砂を集める意味などについて紹介するほか、砂が持つさまざまな性質について実験展示などを通してわかりやすく説明します。</p>	
5	<p><b>5/23~7/13</b></p> <p><b>企画展「斜読徒然草ー近世読書のたのしみかたー」</b> 鎌倉時代に兼好法師によって著された随筆『徒然草』が最も流行したのは、江戸時代でした。本展では、江戸時代の人々が見出した『徒然草』の魅力を探ります。</p>		<p><b>7/19~11/9</b></p> <p><b>特別展</b> 「初三郎式、かながわの描き方ー地形表現の科学ー」 吉田初三郎・作「神奈川県鳥瞰図」など大正から昭和初期に描かれた鳥瞰図は、外観を挿し絵で表現した各所旧跡などを紹介するだけでなく、立体的に表現された地形が見どころになっています。これらが生み出された時代背景を人文科学的、地形表現を自然科学的なアプローチで迫ります。</p>	
6	<p><b>7/18~8/31</b></p> <p><b>特別展「国宝に見る 薬と食べ物」</b> 今も昔も人々の生活に欠かせない「薬」と「食べ物」。県立金沢文庫が管理する国宝「称名寺聖教・金沢文庫文書」から、中世に生きた人々の生活の一端を垣間見ます。</p>			
7	<p><b>9/5~11/9</b></p> <p><b>特別展「金沢八景みほとけ巡礼」</b> 神奈川県立金沢文庫が所在する横浜市金沢区は、かつて「武蔵国六浦荘金沢」と呼ばれました。本展では、風光明媚な景勝地として多くの人々が訪れた「金沢八景」の寺院の仏像を紹介しします。</p>			
8	<p><b>11/14~1/18</b></p> <p><b>特別展「金澤文庫本一流離（さすら）う本の物語」</b> 日本が世界に誇る古典籍“金澤文庫本”を守り伝えてきた神奈川県立金沢文庫と名古屋市蓬左文庫とが連携し、蔵書を守る営為と歴史的意義を紹介しします。</p>			
9	<p><b>1/23~3/15</b></p> <p><b>特別展「金沢文庫文書の歴史」</b> 本展では、「金沢文庫文書」とおして、博物館（図書館）としての県立金沢文庫の活動をふりかえるとともに、将来の調査、研究、公開、保存のあり方を展望します。</p>			
10	<p><b>3/20~5/17（予定）</b></p> <p><b>特別展「至高の宝蔵」</b> 日本中世の東国を代表する称名寺の文物を守り伝えるために開館した神奈川県立金沢文庫が精選する、魅力あふれる至高の品々を紹介しします。</p>			
11				<p><b>2/21~5/10</b></p> <p><b>企画展</b> 「自然史アーカイブズをひらく」 博物館には、第一線の研究者やナチュラリストらが作った資料が残されています。研究の過程で生み出された生物画、フィールドノート、手紙、写真フィルムなど、標本以外の知られざる資料を紹介し、それらを保存する意義についても考えます。</p>
12				
1				
2				
3				
5				
<b>施設情報</b>	<p>所在地 〒236-0015 横浜市金沢区金沢町142 電話 045-701-9069 アクセス 京浜急行「金沢文庫」駅東口からバスまたは徒歩12分、またはシーサイドライン「海の公園南口」駅から徒歩10分 休館日 月曜日（祝祭日は開館） 年末年始、展示替期間 休館日の詳細はホームページをご覧ください。</p>	<p>所在地 〒231-0006 横浜市中区南仲通5-60 電話 045-201-0926 アクセス みなとみらい線「馬車道駅」5番出口から徒歩1分、JR根岸線「桜木町駅」新南口から徒歩5分、または市営地下鉄「関内駅」から徒歩5分 休館日 工事のため通年休館しています。 建物の外観はご覧いただけます。</p>	<p>所在地 〒250-0031 小田原市入生田499 電話 0465-21-1515 アクセス 箱根登山鉄道「入生田（いりうだ）駅」から徒歩3分 休館日 月曜日（祝祭日は開館） 年末年始、館内整備日、燻蒸期間、8月は無休 休館日の詳細はホームページをご覧ください。</p>	

◆展覧会の名称及び日程は現時点での予定となります。最新の情報は各館のホームページ等でご確認ください。

# 神奈川県立の博物館・美術館 令和7年度展覧会スケジュール

	近代美術館 葉山	近代美術館 鎌倉別館	
4	<p><b>4/12～6/29</b></p> <p><b>日本画コレクション再発見と</b> 片岡球子「蔦屋重三郎の浮世絵師たち」 当館の日本画コレクションから、館内では初公開となる作品や、約20年ぶりの出品となる作品を改めて紹介します。また、特集として片岡球子の〈面構（つらがまえ）〉シリーズから、蔦屋重三郎に関連する浮世絵師たちを描いた屏風を展示します。</p>	<p><b>4/12～6/29</b></p> <p><b>中西夏之 光の条件</b> 中西夏之は、絵画を空間や身体との関係性の中で独自に実践した戦後日本を代表する画家のひとりです。今年は、鎌倉新館で発表した晩年の代表作〈着陸と着水〉シリーズの第1作から30年を迎えます。本展では、新収蔵された同シリーズ第2作となる大作《紗幕孔穿》を中心に、〈二ツのリング〉などを当館で初展示し、この画家における絵画の成り立ち、絵画が生む場、その視座を探ります。</p>	<p><b>4/26～7/21</b></p> <p><b>木茂（もくも）先生の挿絵考</b> <b>併陳：近代の洋画</b> 木茂（もくも）先生こと、明治美術の研究者で愛書家の青木茂の旧蔵書として当館に収蔵された約1万冊の「青木文庫」を紹介する展覧会。2024年度に続く今回は、明治から昭和初期までの「挿絵」や「漫画」に関する書籍、雑誌、挿絵原画を特集します。これらと時代を合わせ、浅井忠、黒田清輝、藤島武二、中澤弘光、そして岸田劉生らによる近代洋画の名品を展示します。</p>
5			
6			
7	<p><b>7/19～11/3</b></p> <p><b>上田義彦 いつも世界は遠く、</b> 上田義彦（うへだ・よしひこ/1957-）は、活動開始から自然や都市の風景、著名人のポートレイト、広告写真など幅広い分野で活躍を続けてきた写真家です。瞬間を捉える感性と卓越した技術で、時代とともに変化する作風ながら普遍的な美を作品に込め、国内外で高い評価を得てきました。公立美術館で20年ぶりとなる本展では、代表作や未発表の初期作品から最新作まで、自らが現像・プリントを手がけた約500点を通じ、その40年の軌跡を辿ります。</p>		
8			
9			
10			
11	<p><b>11/15～2/23</b></p> <p><b>若江漢字とヨーゼフ・ボイス</b> <b>撮影されたボイスの記録、そして共振</b> 若江漢字（わかえ・かんじ/1944-）は、1970年代のドイツ滞在を機にヨーゼフ・ボイス（Joseph Beuys/1921-1986）の芸術に共鳴し、彼と交流するなかで、ボイス作品をはじめとする現代美術の収集と展示など、自らの創作活動と並行して芸術と社会を結ぶ行為を続けてきました。多くが初公開となる記録写真と並行して二人の造形作品を展示し、両者の共通項と独自性を考察します。</p>	<p><b>11/15～2/23</b></p> <p><b>没後10年 江見絹子</b> 江見絹子（えみ・きぬこ/1923-2015）は、日本人女性として初めてヴェネチア・ビエンナーレ（第31回・1962年）に出品した画家です。ヴェネチア・ビエンナーレの出品作全点を中心に、没後10年となる江見の代表作を展覧します。</p>	<p><b>8/2～10/19</b></p> <p><b>これもさわられるのかな？</b> —彫刻に触れる展覧会Ⅱ— 2022年に開催した展覧会「これってさわられるのかな？」の第二弾です。コレクションを中心とした彫刻に実際に手で触れ、さまざまな形や質感などを体験することで「見る」だけではない作品の味わい方を探ります。（作品保護のため、美術館で用意する手袋を着用していただきます）</p>
12			
1			
2			
3	<p><b>3/7～5/31</b></p> <p><b>内間安理・俊子展</b> 沖縄からアメリカへ渡った両親のもとに生まれた内間安理（うちま・あんせい/1921-2000）は、1940年に日本に留学し、画家を志すようになります。戦後、恩地孝四郎の創作版画に感銘を受け木版画に取り組み、1970年代後半には浮世絵版画の技法にもとづく「色面織り」の技法を確立します。本展では、幻想的なアッサンブラージュで知られた妻・俊子（うちま・としこ/1918-2000）にも焦点をあてながら、版画やコラージュ作品を中心に、二人の独自性のある豊かな創作世界を振り返ります。</p>	<p><b>3/7～5/31</b></p> <p><b>たいせつなものⅡ</b> —近年収蔵の彫刻・立体作品から— 新収蔵品を紹介するコレクション展シリーズ「たいせつなもの」の第2弾です。本展では2020年度から2024年度に収蔵された彫刻・立体作品のうち、収蔵後に初公開となるものを紹介します。今回紹介するのは、すべて寄贈、または管理換えによって当館に収蔵された作品です。作家や関係者のご厚意によってコレクションに加わった「たいせつなもの」を、将来に受け継いでいくための展覧会です。</p>	<p><b>11/1～2/1</b></p> <p><b>川口起美雄</b> <b>Thousands are Sailing</b> 川口起美雄（かわぐち・きみお/1951-）は、目に見えないものは描かず、目に見えるものを描いて誰も見たことがない風景を現出する作家です。本展では、1970年代に制作された初期作品から初公開となる新作までを展示し、半世紀に及ぶ創作の軌跡をたどります。</p>
5			
施設情報	<p>所在地 葉山町一色2208-1 電話 046-875-2800 アクセス JR横須賀線「逗子駅」東口、京浜急行「逗子・葉山駅」南口から京浜急行バス「逗11,12系統(海岸回り)」乗車、「三ヶ丘・神奈川県立近代美術館前」下車 休館日 ・月曜日（祝日と振替休日は開館） ・年末年始 ・展示期間 ※ホームページ等でご確認の上、ご来館ください。 開館時間 9:30～17:00（入館は16:30まで）</p>	<p>所在地 鎌倉市雪ノ下2-8-1 電話 0467-22-5000 アクセス JR横須賀線、江ノ島電鉄線「鎌倉駅」から徒歩15分 休館日 ・月曜日（祝日と振替休日は開館） ・年末年始 ・展示期間 ※ホームページ等でご確認の上、ご来館ください。 開館時間 9:30～17:00（入館は16:30まで）</p>	

◆展覧会の名称及び日程は現時点での予定となります。最新の情報は各館のホームページ等でご確認ください。